

52回トップセミナー開催

やるぞ！イノベーション～持続的な成長経路を実現するために～

平成31年2月26日(火)、ANAクラウンプラザホテル広島において、平成30年度のトップセミナーを開催しました。

本年度は、第一講演にマツダ株式会社 代表取締役副社長執行役員の藤原清志氏、第二講演に歴史家・作家の加来耕三氏を講師にお迎えしました。

講演に先立ち、清水希茂中国生産性本部会長から、「現下の我が国経済は、地震・台風・豪雨など相次いで発生した自然災害の影響はあったものの、緩やかな景気回復が長期間にわたって継続しており、企業収益や設備投資が拡大する中で、雇用・所得環境が改善し、更には消費や投資の拡大につながるという「経済の好循環」が実現しつつある。中国地方においても、多くの方が被災された昨年7月の豪雨災害により、生産活動等の一部に影響があったものの、景気は着実に回復してきている。

一方で、景気回復による求人の増加は、少子・高齢化の進展による生産年齢人口の減少と相まって、深刻な人手不足をもたらしている。求人難に起因する営業時間短縮や廃業、倒産は年を追うごとに深刻さを増しており、今後の力強い経済成長を実現していくうえでも、課題克服に向けた取り組みは「待ったなし」の状況である。今まさに、イノベーションによる生産性の向上や働き方改革の実践が求められている時といえる。また、組織の力を結集し大きな成果を得るための取り組み過程においては、目指すべき姿や進むべき方向を示し、組織を導いていくリーダーの存在が欠かせない。」との開会挨拶がありました。



第一講演では、「将来の自動車ビジネスの方向性の一考察～マツダが考える将来の商品・技術の共創体制の姿～」を演題に、藤原氏によるご講演をいただきました。続く第二講演では、「戦国武将に学ぶリーダーの条件」を演題に、加来氏によるご講演をいただきました。藤原氏の講演内容は、次号で詳しく掲載する予定です。

閉会にあたり、久光博智中国労組生産性会議議長から、「生産性運動は、単なる合理化の追求ではなく、「人間性の尊重」を基本理念におき、付加価値の創造とともに「労働の尊厳」を守る運動であることは、言うまでもない。

そして「生産性運動の三原則」である「雇用の維持・拡大」、「労使の協力と協議」、「成果の公正配分」は、設定されて60有余年が経過する今なお、その輝き・意義を失っていない。」との挨拶がありました。

ご参加いただいた方々の熱心なご聴講により、本年度も本セミナーを盛会裏に終了することができました。ご来場くださいました会員各位に改めて御礼申し上げますとともに、次年度も多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。